

# 消防団だより

## 第4号

発行

富士市消防団

富士市永田町1丁目100番地

電話 (0545) 51-0123

内線 (3333)

FAX (0545) 53-4633

### “自分たちの街は自分たちで守る”

## 地域に密着した消防団づくり

消防団長 川口包雄



我々消防団の始まりは、江戸時代の「町火消」からで、数百年余の伝統と郷土愛護の精神を受け継ぎ今日に至っています。

この間には、幾多の組織変遷を経たものの、「自分たちの街は自分たちで守る」という基本的な理念は変わることなく、地域住民の有志により組織され、火災での消火のみならず、多数の人員を必要とする風水害、大規模災害の防ぎよ活動等に重要な役割を果たして来ました。

また、近年の社会経済情勢の変化と共に、消防団を取り巻く環境は大きく変化し、消防技術の科学化・高度化の中で、時代に即した対応を推進しているところがあります。

しかしながら、理解を得るべき地域住民の消防団活動に対する関心が薄らいでいる中、我々消防団員においては、若年層のサラリーマン化や高齢化等により団員の確保に頭を悩ませている次第です。

富士市では、平成元年に「富士市消防団活性化総合計画書」を策定し、人的組織の充実、団活動に対する住民啓発、団員の処遇改善を柱に掲げ、地域住民、特に青年層の団活動に対し積極的な参加を促すため、一層の消防団活性化を図っております。

また、このためには、地域との密着したきめ細かな活動を行い、常備消防と共に、従前にも増して地域社会の安全を守り、地域に根づいた消防団の確立を目指すため、知識の修得に励むと共に、団員の結束を求めらるものであります。

## 消防出初式に臨んで

第二十二分団 団員 山本明広

平成六年一月九日(日)、富士市消防出初式が盛大に執り行われた。

自分は、消防団に入団して一年三ヶ月で、昨年の出初式に参加しましたが、雨天のため市民会館での屋内開催だった為か、印象は薄く、屋外

での出初式については、テレビや新聞でしか見た事がありません。

こんな中、今年も晴天に恵まれ、市役所前「青葉通り」での出初式は、団員をはじめ、一般市民も大勢参加され、式に於いては、四十年勤続功

## 平成6年富士市消防出初式



市役所前「青葉通り」にて(分列行進)

労賞を受賞した方など、本当に素晴らしい事で、自分としても一歩でも近付けたらと言う気持ちになりました。また、出初式ならではの緊張感が漂う分列行進・一斉放水等、初めのためか迫力ある式を経験させて頂きました。

出初式に参加して、これからは伝統ある富士市消防出初式は自分達が受け継ぐ人となり、見学の一般市民の方々に対し、自分達がこれからの富士市を災害から守っていくんだ！と言う気持ちが直立不動の姿勢において、心あらたに感じました。

出初式も無事終了し、二月二十八日までの特別警備、更に十月の訓練

大会に向け消防操法の練習も始まります。

去年の訓練大会では、小型ポンプ操法の一番員で出場し、今年もポンプ操法の選手とのことで、先輩にもハッパを掛けられています。

去年の大会では、戸惑いの連続でしたが、今年からは先輩の叱咤激励に応えられ、早く一人前の団員として地域のために貢献できるよう頑張る所存です。

自分としても、まだ二十一才なので若さを前面に出し、諸先輩の指導を受けながら、心身共に充実した消防団活動に携わって行きたいと思えます。



# 奥尻島を視察しての教訓

副団長 芝田秀雄

先般奥尻島を視察しましたが、まずもって、亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたします。

視察して感じたことを通論ではありませんがまとめてみます。

◇地震が発生したら

①上部からの落下物に気をつける

②火を消す ③ガスの元栓を閉める

◇津波が来襲する場合には

①高所へ逃げると共に海の見えにくい場所に避難する

②鉄筋コンクリート又は鉄骨造の建物の上方に避難する

③大きな林に避難する

◇火災等二次災害が発生した場合は

①人命を第一として救助する

②消火作業にあたる

以上が奥尻島で再確認した事なの

ですが、この地震の発生時にはほとんどの人が、一時的ではあるが、火の始末等の行動ができず、高台に避難したにもかかわらず、海の見える所に居た人達や、一時的に避難しても家財道具を取りに戻った人は津波にのみこまれてしまったとの説明を受けました。

富士市では平地が多いので、各地域において指定された避難場所の確認を行うと共に、河川の逆流による災害も予想されます。

消防団としても、市民の生命、身体及び財産を災害に因する被害を軽減することを任務としているため、充分な対応策が必要であると感ぜました。



奥尻島青苗港に打ち上げられた漁船。津波のすさまじさを物語る。

# 奥尻島の災害現地を視察して

団本部 訓練指導員 土田松男

平成五年十月五日より六日にかけて私達団本部員は北海道南西沖地震の被災地である奥尻島を視察しました。

この地震は、七月十二日午後十時十七分に発生し、死者・行方不明者は百九十九人を数えました。

奥尻島の港付近では、高さ十メートルの津波と火災によりすべての建物に被害がおよび建物の骨組みが一部残っていただけであった。又、宿泊客等二十五人が犠牲となったホテ

ル「洋々荘」と町所有の灯油タンク一基も土砂崩れにより下敷きになっていました。

青苗地区は、山側の道路沿いの家数軒が火災を免れ残っている程度で、あとは高台にある青苗中学校があるだけでした。

奥尻消防署で当日の状況説明を受けたが、この地震では柱につかまつか机の下に隠れるくらい判断しきれず、揺れが治まってから火の始

末をして、急いで高台に避難した人のみが助かったようです。地震が発生してから五、六分で津波が襲って来たとのこと。

この地方では、朝晩など気温が二十度を下がる時とストーブを使用するようなので、ほとんど一年を通して暖をとるそうです。

地震の当時は気温が十九度なので、当然、暖房器具を使用していた家もあったと思われる。

視察の途中、行き交う車はダンプカーだけで、復旧工事が進められていることを示していました。

早朝、青苗地区で小・中学生の元気な登校風景を見て心が熱くなりました。

# スリムで開かれた活動を目指して

第十二分団 分団長 秋山武士

英語で挨拶、フランス語で詩を朗読、中国語で愛を語り、ラテン語で歌を...

現在の消防団活動は、新しい感覚で行動する若者達の要求に答えられるだろうか？

管理消防からそろそろ脱皮して、隣近所お互いに助け合うという使命

感なくすぐる必要があると思われがどうだろうか。

予防活動、訓練大会は特別チームで対処し、消火活動は、あくまでも消防署の補助として隣近所への出動のみとし、初期消火・水利案内程度とする。

# 消防団活動に思う

第三分団 班長 坂東満寿雄

ここ数年、新聞・雑誌等に国際ボランティア活動がとりあげられ、特に日本がカンボジアPKOに参加し

てからは、若者の多くがカンボジア復興ボランティア参加を希望している様です。

私達の消防団活動は、歴史も古く、地域に密着した誇りある活動と思えます。団員の年齢層の広さ、職業の多様さ、そして誰にでも参加できる事等を考えると、もっと人気があっ

ていはずです。各自が職業を持ちながら、時間をさいて集まり消防団活動について語り実行していく。意識をせず自然に奉仕活動が出来て、地域の為に種々な活動に参加しようという人間を作りあげていく消防団組織はすばらしい奉仕団体であり、地域に与える影響は大きいと思えます。若者にもっとPRをして元気の消防団を維持していきたいと思えます。

予防活動、訓練大会は特別チームで対処し、消火活動は、あくまでも消防署の補助として隣近所への出動のみとし、初期消火・水利案内程度とする。災害に遭遇した場合はその通報、交通整理等にあたる。負傷者に対し救急の判断を下せる程度の教育、その内容を伝える通信術、交通整理方法を研修し、個々のレベルアップを図る。

こんなスリムで、誰にでも参画できる消防団活動を夢見るのは私だけだろうか。



# 救急講習によせて

第十九分団 団員 落合 廣 巳

消防の基本理念として、「市民の生命と財産を守る。」ということが掲げられています。そして、我々消防団員も市民の財産である建物等の火災に際しては、出動し経験も積み重ねてきています。しかし、市民の生命を守るといふことでは、もちろん火災から守るのは当然なのですが、それ以外の人命救助という点では、あまり経験を積んでいないのが現状です。この様ななかで開催された救急講習は、このギャップを埋める意味で非常に役立つことだと感じました。



実際に行ってみるとかなりの労力と忍耐力が必要なことがわかり、大変である事が実感されました。また、三角布の使い方については、頭部や手足等に実際に巻いてみて、いかに患部をやさしく保護し、しめすぎによる血流障害が出現しないようにするか等、実際に則した講習を受けることができました。

近年、雲仙普賢岳の災害や、北海道南西沖地震等に際して、消防団員の活躍がしばしば報道されている中、静岡県も東海地震という災害が危惧されていることから、消防団員の人命救助の使命は益々重くなってきたらと思っています。

我々も、消防団員としてこのような講習をおして、火災を防ぐというだけでなく、本当の意味での「市民の生命と財産を守る。」という事を、自信を持って遂行できるのではないかと思います。



# 私にとっての消防団

第一分団 団員 内海 京 一 郎

私が消防団に入団するきっかけとなったのは、自らが体験した火災により私にも何か役立つことができればと考えたからです。

当時私は六才、姉と二人で家の二階で遊んでいたところ、ふとベランダを見ると赤々と燃える炎が家を包もうとしていました。幼い私達は何が起こったかわからず、ただ茫然と立ちつくすだけでした。その時階段

を駆け上がる音が聞こえ、私は父親に抱えられ無事助かることができました。家は全焼し焼け焦げる臭いがしたのを今でも覚えています。火災というものは、もちろん人の命を奪うという恐ろしいものなのですが、それと同時に大切な思い出もすべて奪ってしまいます。私には、幼い時の写真、大切なもの、そんな思い出の品がありません。

# 入団にあたって

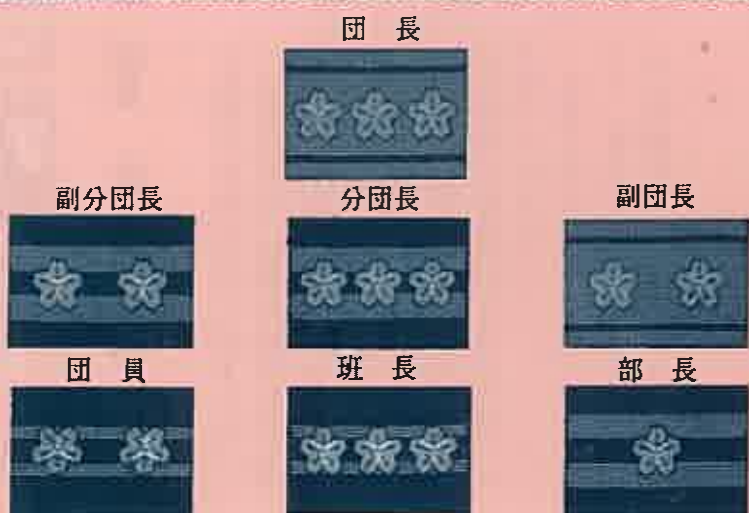
第十八分団 団員 広瀬 秀 明

入団のきっかけは、組の話合いの時に、「消防団に、年令が三十五才以下の誰かに入ってもらいたい。」と組長から言われ、「そうなる」と年令的には俺しかいない、後輩に押しつけるのもかわいそうだな。」と思い、「自分で良ければ入ってもかまわない。」と軽い気持ちで入団しました。私は、消防団と言うのは、火災にさえならなければ、何もする事がないものかと思っていました。

しかし、分団の先輩方が一つひとつ分りやすく教えてくれるので、今では、なんとか自分にもやれそうだなと思っています。消防団員としての役割とはどうゆうものなのか、だんだん分かって来ました。まだ入団したばかりなので、消火活動がきちんと出来るものかどうかがとても不安です。

入団前は、市の火災出動の放送が流れても聞き逃していました。今では放送が流れると、窓を開けてじっと耳を傾け、緊張して聞く様になりました。これからも、もっといろいろな事を学び、先輩の足を引っ張らない様に頑張りたいと思います。

# 消防団員の階級章



当時は消防団の存在を知る由もないのですが、その存在を知ったのはつい最近でした。火災時に出動するのは、消防署に勤務する消防士として認識していませんでしたが、先輩から地域の入団して構成する消防団があるからぜひ入団してみないかと誘いがあり、今に至っています。

先日の新入団員教育の際には、実践に役立つ訓練を指導してもらい、人の命を守る立場として迅速かつ確実な対応を重んじるという事を学びました。経験をを通して一人前の消防団員になるよう努力したいと思いましたが、できれば実践がない事を日々願っています。



# 分団紹介と防火意識

第九分団 班長 渡辺憲明

私達の九分団は、市内東部に位置し第三方面隊に所属しております。

須津地区は名所旧跡も多く、自然に恵まれた地域にあり、環境は素晴らしい所です。特に『大榎の滝』や『愛鷹連峰』への玄関口として知られ観光の要所となっております。地域を守る為の受け持ち区域も広く、東側は沼津市との境界まで、西側は赤淵川、南側は沼川、そして北側は愛鷹連峰までとなっております。

消防車も二車輛配置され、その二号車が江尾地区に配置された時に私は入団しました。団員増員のため地区の仲間と共に三十三才で入団しました。他の分団員より年令的にも若い入団で心配でしたが、分団長や団員が気さくで色々面倒をみてもらいながら、ここまでやって来れました。最近、市の広報紙等で消防団関係の記事を見ると、団員の減少傾向と高齢化の問題や消防団全体の活性化等の内容が目にとまります。各分団共、対策に苦慮している事と思いますが、九分団では今のところその様な心配は無縁な感じがしてなりません。消防本部からの指令や地区からの要望に対し、分団長以下団員の結束のもとに素早く対処できるのが九分団の特色だと思っております。また、佐野分団長が以前、早朝野球チームの監督であった事もあり、若い人達とのつながりが有るので、団員の勧誘等においても効率良くまとめております。若い力と団結力を発揮して平



『大榎の滝』

成四年度の消防団ソフトボール大会では見事に優勝しました。その他、団員有志のゴルフ同好会のコンペも行なっております。お互い職業の違う団員相互の交流によって分団の団結力がなお一層強くなるものだと考えております。

私が今まで火災現場で感じたことは、「ほんの僅かな心の隙で火災は発生する事が多い」と、いうことです。例えば、ストーブへの補給時に火をつけたまま給油したり、寝タバコによるもの、天プラ鍋に火をつけたままの長電話等、数えたらきりがありません。火の取扱いに気をつけなければ、一瞬にして家を失ったり又、尊い生命を奪う事もある重大損

失を、いつまでたっても繰り返す事になるでしょう。今までに一番憤りを感じたのは、平成三年度須津地区において留守宅ばかりを狙った連続三件の放火事件でした。こればかりはだれが火の取扱いに気をつけていても防ぐ事のできない恐ろしい犯罪でした。須津地区住民はあまりの不安感に各町内会でも夜間の巡回を始めました。私達九分団も須津地区全域を夜間、消防車で巡回する事になり、消防本部の協力も得て、無線機二台を借りて交替で勤務した事が思い出されます。現在では、元通り平穏な須津地区に戻っています。

分団の紹介と共に、この様な特異な犯罪が二度と起こらない事を祈っております。

## 県査閲大会

第七分団 班長 米山 聰

七分団に入団して十三年、初めの一年は消防団の行事にあまり参加もせず、先輩の団員のやるのを見るだけでした。その頃の七分団の操法大会の成績は、ポンプ車操法で入賞はしていませんが、優勝はありませんでした。

現在の副分団長が十二年前班長の時に、指揮者として何とか優勝の感動を味わいたく、二年計画でポンプ車操法の練習を始め、当時の私は三番員でした。それから七分団の快進撃が始まり、平成四年までに市大会で十連覇、支部大会で八勝、県大会には五回連続出場することが出来まし

## 支部訓練大会に出場して

第十一分団 団員 佐藤親弘

平成四年度富士市訓練大会に於いて、私達第三方面隊が訓練礼式の部で優勝し、平成五年度の支部大会に出場することになりました。

私としては、市訓練大会に二度出場しましたが、仕事の都合などで練習参加も余り出来なく、皆に迷惑を掛けました。支部大会こそは自分自身としても納得が行く練習をしたく張り切って参加しましたが、日程・内容ともにハードでした。大会に近づくにつれ欲も出て、優勝を狙いた

い気持ちが強くなって来ました。

大会当日は、練習の成果を出し切り皆の足を引っ張らないよう、又、失敗してはいけな、と言う気持ちで先立ち、緊張の連続でした。

良い成績は残せませんでした。自分自身が納得のいく大会であったと思っております。

大会に向けての練習で、指導員の方々、諸先輩の指導応援については心より御礼申し上げます。



県営草薙陸上競技場にて



# 県大会に向って

第七分団 班長 中村正樹

私は、ポンプ車操法の要員になってから二年経過しましたが、この間に富士市の大会と富士支部の大会をそれぞれ二回経験しました。他の要員にも恵まれ、全て優勝という輝かしい結果となり、とてもうれしく思っています。

支部大会で優勝すると二年に一度の県大会がありますが、昨年は無く私にとって初の出場となるわけです。富士支部の代表として、相当のプレ

ッシャーを感じている今日このごろです。しかし、日ごろの訓練の成果を十分発揮し、入賞出来る様一杯がんばりますので、皆さんの応援をよろしくお願いします。

また、この場を借り指導員の皆様方には、熱心にご指導いただいた事を深く感謝申し上げます。

最後に、日ごろの訓練を基盤とし、有事の際役立つ様、精進していくつもりです。

# 訓練大会を振り返って

第二十四分団 団員 繁竹光博

「集まれ！」指揮者の声が緊張感ある会場に響く。いよいよ自分達の番だ。

例えば、訓練大会に向け、練習が開始されたのは八月下旬からで、それから一ヶ月余り、訓練日はもちろん、日曜日の早朝も訓練を行って来た。本番前に、「恥ずかしくない程度に頑張ろう。」皆でそう話したものの各自が入賞を意識しているのを感じた。そして、自分としてはあまり満足出来ないまま演技が終了したが、皆の顔にはホッとした笑顔が浮かんでいた。結果は三位入賞。今まで練習を手伝ってくれた他の団員の応援と要員一人ひとりが努力したた

まものである。



公設卸売市場にて

抽選により来年も小型ポンプとなり、さらに、訓練礼式にも出場するとの事である。すぐに来年の小型ポンプ要員に立候補した。四年連続で出場する訳であるが、上位を目指して頑張りたい。

# 消防団員の家族として

第六分団 分団長 家族 川口享代

深夜広報が鳴り出動がかかる。第二出動だ！主人を起こす間もなくもう起きて支度にかかり飛び出していく。

消防団は、春・秋の火災予防運動、九月の防災訓練、十月の訓練大会、冬の特別警戒と息つく暇もなく防災活動を行っています。

物静かな中にしつかりした信念を持ち、仕事と消防を両立させながら極力参加している主人を見てみると、

家族としては心配やら、頼もしさが交錯する訳ですが、この地域に生れ育った者としては、自然を守ることはもちろん、災害を最小限度にとどめる消防の使命を果たすべく活躍している消防団員には頭が下がる思いです。

私の子供は、行事のあることに主人に連れられて、防災の見聞やら活動を見せられてきました。家族としては、一生懸命に地域防災に貢献し

てきた主人を誇りに思っており、子供にも成人したら消防団員に思っておりです。そんな中にも、消防団活動に対し理解の薄い人が居ると残念です。

平成五年の出初式には思いもよらず、名誉ある章を主人共々戴き、又、代表として壇上に立たせて貰いました。家族皆で感激を分かち合いました。

今自然界では思いもよらない事が数多く起きており、いつこの地域にもその中に巻き込まれるかわかりません。消防団員の一家族として地域を守り愛し、地域の防災に徹した富士市消防団として益々の発展を心からお祈り致します。

平成五年度全国統一防火標語  
防火の輪つなげて広げてなくす火事

# 私と家族

第二分団 団員 佐野文彦

出番は次だ。今、目の前で小型ポンプ操作を行っているチームを見ながら、もう一度靴のヒモを締め直す。顧みれば、五月頃から十月を目指し練習して来たのだ。分団員はもとより、家族には苦労かけたと思り返す。

妻にとって練習日の夕方は忙しい。仕事があるので、帰宅時間はいつもと変わらない。夕食のメニューを考

えるというより、そこにある材料で出来る品をてきぱきと調理する。メンバーのひとりが遅れても練習にな

らないことを知っているので、私の方が急ぎ立てられるくらいだ。私はその間、風呂を沸かし、まだテレビを見ていた息子と娘をせかす様に入れ、ふとんをしいておく。妻との約束なので、守らなければならぬ。

こんな具合が本番近くなると毎日の様に続く。たまに練習がない日などは息子から、「お父さん、今日は消防活動が、彼の生活リズムになっ

まっているのだなあとと思うと、何と

返答して良いかすぐに言葉が出ない。「ああ、今夜はお休みだよ。」と言うとホッとしたように微笑み、「あのねえ、今日幼稚園でねえ。」と話し始める。きつと話したい事がたくさんあるのだろうと思うと、相づちをうちながらすまないなあという気持ちが入り込んでくる。

他の要員も同じ様な気持ちだろうと思う。だから、一度練習日と決めて出て来た日は、たとえ雨で練習が出来なくとも何かをつかみたいと、日々積み重ねて来たのだ。

心からありがとうと言いたい。そして、あふれる思いをパワーにして、待機線に立つのである。



# 消防団員の家族

## 第二十五分団 家族 渡辺 圭子

大家さんだった酒店の御主人に勤められ、夫が消防団に入ったのは末娘がまだお腹にいるときでした。その娘も来年は小学校に入学します。初めの頃は、幼な子を抱えての生活の不安から、消防団のため度々家を空ける夫と衝突することもしばしばありました。それがいつしか、夫が団員であることを自慢にさえ思うようになりました。

その理由の一つは、消防団の方々

の温かな人柄です。留守を守る家族を慰安して下さるときの団員の方々には本当に頭が下がります。

もう一つは、訓練大会出場のための練習に打ち込む夫の真剣さです。仕事で疲れているにもかかわらず、練習に向かう父親の姿を見て、息子達も自らの生活を引き締めて行くこととでしょう。

いつか親子で団員となる日も来るのではないかと思う今日この頃です。

# 富士市消防団の主な沿革

江戸時代

村々独自の自然発生的な火消組が形成され、あらゆる災害に対応した。

昭和

二十三年 消防団令、消防組織法の制定により、自治体消防発足と共に、各町村での消防団発足となる。

明治

二十七年 勅令により消防組規則が制定され、従来の組織を統合或は改組、公設消防組となり警察権に属し活動が始まる。

昭和

四十一年 新市合併により富士市消防団として、二十四ヶ分団、団員一〇一八名が組織編成される。

昭和

十四年 警察団令の制定により消防組は警防団に改編される。

昭和

四十八年 団活動の円滑化・指揮命令系統の明確化を図るため、六方面隊に改編し専任方面隊長を任命する。

平成二年

規律・技能・施設優秀により日本消防協会団体表彰特別表彰「まとい」を授与された。

# 消防団の主要行事

- ▽辞令交付式 四月一日
- ▽東部地区支部連絡協議会 五月上旬 富士宮市
- ▽庶務・機関員・新入団員救急研修 六月中旬
- ▽分団長行政視察研修 六月下旬
- ▽富士支部査閲大会 七月三日 富士市
- ▽特別健康診断 八月下旬
- ▽総合防災訓練 九月一日
- ▽市訓練大会 十月二日
- ▽団本部行政視察研修 十月上旬
- ▽静岡県消防大会 十一月 金谷町
- ▽秋季火災予防運動 十一月九日～十五日
- ▽消防まつり 十一月
- ▽火災期特別警備 十二月二十日
- ▽春季火災予防運動 平成七年二月二十八日～三月一日～七日

**HAPPY MARRIAGE!**

月	日	分	団	氏	名	月	日	分	団	氏	名	
四	・	十四	・	二十一	三浦	博	・	十一	・	七	・	三
					光							遠
					子							藤
					文							精
					子							美
					子							千
					子							代
五	・	五	・	十	渡	孝	・	十一	・	十九	・	十五
					辺	真						西
					孝	奈						川
					美	美						美
					美	彦						泰
					美	彦						彦
六	・	二十	・	十一	石	達	・	十一	・	二十三	・	一
					川	里						中
					里	達						川
					美	里						礼
					巳	美						子
					巳	康						子
九	・	十二	・	二十六	齊	勝	・	二	・	二十	・	八
					藤	正						黒
					勝	里						井
					正	子						裕
					子	子						之
					子	子						子
十	・	九	・	二十二	鈴	克	・					
					木	利						
					知	恵						
					恵	利						

平成五年四月から現在までに結婚された方々です。

**団員募集**

\*今、若い人の力を消防団は求めています。\*

消防団に入団するには、地域の消防団員または町内会長、区長さんに申し出て下さい。

**おもしろ雑学**

ナマズが騒ぐと地震は起こるか?

「ナマズが騒ぐと地震が起こる」と、昔からよく言われている。たしかに一部には、ナマズが地震前に増加する地電流や自然現象の変化を敏感にキャッチする力を持っていると言われている。だが、現在では、地震予知能力はない、という説が支配的だ。この地震の言い伝えは、鹿島神宮にある「要石」だと考えられている。この石は、江戸時代から地下のウナギが暴れるのを防ぐ「地震押さえの石」として御利益があると考えられてきた。なんと当時、鹿島神宮の神官が全国を歩きまわって、伝えたというからすごい。

**原稿募集**

消防団広報紙編集委員会では次回の原稿を募集しています

○枚数 四百字詰原稿用紙一枚程度

○問合せ (消防団広報紙編集委員会)

又は、消防本部管理課

○締切り 八月末日